地質学雑誌　第126巻　第11号（通巻1502号）付録　令和2年11月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.23 No.11 November 2020

一般社団法人日本地質学会
The Geological Society of Japan

理 事

任期：2020 年 5 月 23 日～ 2022 年総会

会長（代表理事） 磯崎行雄（東京大学）

副会長 佐々木 和彦（応用地質（株））
平田大二（神奈川県立生命の星・地球博）

常務理事 中澤　努（産業技術総合研究所）
副常務理事 岡田　誠（茨城大学）
執行理事 ウォリス サイモン（東京大学）
緒方信一（中央開発（株））
大藤　茂（富山大学）
狩野彰宏（東京大学）
亀高正男（(株) ダイヤコンサルタント）
小宮　剛（東京大学）
坂口有人（山口大学）
高嶋礼詩（東北大学）
辻森　樹（東北大学）
星　博幸（愛知教育大）
松田達生（工学気象研究所）
矢部　淳（国立科学博）

理　事 上松佐知子（筑波大学）
芦　寿一郎（東京大学）
天野一男（東京大学）
安藤寿男（茨城大学）
内野隆之（産総研）
尾上哲治（九州大学）
笠間友博（箱根ジオミュージアム）
亀尾浩司（千葉大学）
亀田　純（北海道大学）
川端清司（大阪市立自然史博）
北村有迅（鹿児島大学）
清川昌一（九州大学）
後藤和久（東京大学）
小松原純子（産総研）
齋藤　眞（産総研）
杉田律子（科学警察研）
竹下　徹（北海道大学）
内藤一樹（産総研）
納谷友規（産総研）
奈良正和（高知大学）
西　弘嗣（東北大学）
根本直樹（弘前大学）
野田　篤（産総研）
早坂康隆（広島大学）
藤井正博（応用地質（株））
細矢卓志（中央開発（株））
保柳康一（信州大学）
松田博貴（熊本大学）
三田村宗樹（大阪市大学）
道林克禎（名古屋大学）
矢島道子（日本大学）
山口飛鳥（東京大学大気海洋研）

監 事

任期：2020 年 5 月 23 日～ 2024 年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156（振替口座　00140-8-28067）
e-mail: main@geosociety.jp　ホームページ htttp://geosociety.jp

日本地質学会*News*

Vol.23 No.11 November 2020

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

各賞助成……2
令和3年度「消防防災科学技術研究推進制度」研究開発課題の募集/第52回（2021年度）三菱財団自然科学研究助成/おおいた豊後大野ジオパーク巡検宿泊費補助金の拡充

公募……2
広島大学学術院（大学院先進理工系科学研究科地球惑星システム学プログラム）教員公募

報告：2020名古屋大会代替企画……3
構造地質部会2020年度オンライン例会　開催報告（濱田洋平）

表紙紹介……3
第11回惑星地球フォトコンテスト入選「Chocolate Box」（長谷川裕二）

TOPIC……4
津波と集落（高山信紀）

支部コーナー……6
関東支部：ミニ巡検「大磯丘陵北東部のテフラ」実施報告／「オンライン講演会－おうちで学ぶ恐竜研究の最前線－」のお知らせ／

日本の地質学100年：日本地質学会100周年記念　再版のお知らせ……7

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について……8

2021年度の会費払い込みについて……9

学会記事……10
2020年度第3回理事会議事録
2020年度第4回・5回執行理事会議事録

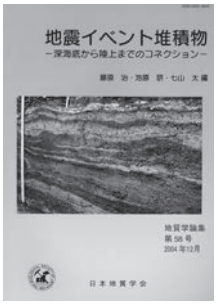
CALENDAR……14

訃報……14

巻末　会費口座振替依頼書

お知らせ

論集58号は，これまで売り切れとなっていましたが，このたび在庫が確認されましたので，再度販売を開始いたします。



地質学論集 第58号
「地震イベント堆積物－深海底から陸上までのコネクション－」
藤原　治ほか編　169頁　2004年12月
刊行　会員頒価2,900円，送料350円

購入希望の方は，学会事務局までお申込下さい。
FAX 03-5823-1156 E-mail: main@geosociety.jp

事務局営業カレンダー

営業時間：9:30から18:00まで

11月 November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月 December　■ お休み

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※年末年始休業：12/29-1/5

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します.

令和3年度「消防防災科学技術研究推進制度」研究開発課題の募集

消防庁では，近年の自然災害の増加，少子高齢化，社会資本の老朽化等を踏まえ，消防防災分野における課題解決や重要施策推進に資するため，消防防災科学技術研究推進制度（競争的資金）により研究開発を推進しています.

1. 募集期間：令和2年10月23日（金）～令和2年12月23日（水）17時まで

2. 対象とする研究開発課題：

○テーマ設定型研究開発（消防庁があらかじめテーマを設定するもの）

・重要研究開発プログラム ～『ＡＩやＩＣＴ等を活用した災害対応のための新たな装備・資機材や情報システム等の開発・改良』

・重要施策プログラム ～『新型コロナ禍における救急出動への影響分析』など他３テーマを設定

○テーマ自由型研究開発（研究者が自ら設定したテーマによる提案を募集）

3. 応募方法：

公募要領（https://www.fdma.go.jp/mission/develop/develop001.html）に従い，府省共通研究開発管理システム（e-Rad）により申請を行ってください.

＜担当＞

消防庁総務課（消防技術政策担当）四維・田川

Tel：03-5253-7541 Fax：03-5253-7533

Mail：gisei2@ml.soumu.go.jp

第52回（2021年度）三菱財団自然科学研究助成

助成の趣旨：近年の自然科学の進歩はめざましく，各学問分野の研究の深化はもとより分野間の相互作用によりつぎつぎに新たな研究領域が誕生しつつあります．このような状況のもとで自然科学のすべての分野にかかわる独創的かつ先駆的研究を支援します．さらに既成の概念にとらわれず，新しい発想で複数の領域にまたがる研究に対しても大きな期待をよせ，助成します．昨年度に引き続き，若手の研究者の方を対象とした「若手助成」を実施します.

助成総額：約3億3,000万円のうち，

一般助成：2億7,000万円（1件2,000万円以内）

若手助成：約6,000万円（1件一律400万円）

応募期間：2021年1月6日（水）～2月3日（水）17時（締切厳守）

【申込書提出先】

公益財団法人　三菱財団事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2丁目3番1号

三菱商事ビルディング21階

Tel．03-3214-5754

Fax．03-3215-7168

応募方法の詳細は，HPをご参照下さい.

http://www.mitsubishi-zaidan.jp

おおいた豊後大野ジオパーク巡検宿泊費補助金の拡充

おおいた豊後大野ジオパークでは、このたび学生巡検や野外調査等の宿泊費補助について、対象の拡大と金額の増額を行いました．すでに運用を開始していますので，冬休みや春休み中の現地調査にも利用できます.

補助対象事業：次の要件すべてを満たすことが必要です.

1）学校教育法に規定する短期大学又は大学の大学生，大学院の大学院生であること

2）豊後大野市内における，おおいた豊後大野ジオパークに関連した調査研究（地形・地質学，生物・生態学，人文科学のいずれの分野を含む）が目的であること

3）豊後大野市内の宿泊施設に宿泊し，1人1泊当たりの宿泊経費（食事込み料金）が4,000円を超えるものであること

補助対象経費，補助対象者：補助対象経費は，上記の補助対象事業を行うためにかかる宿泊費です．補助対象者は，補助対象事業を行う大学生，大学院生のみです.

補助金額：1泊につき2,000円の補助金を交付します．ただし，1回の滞在につき5泊分10,000円を限度とします．※補助対象者1人につき年間1回限りの交付です.

補助金申請の流れ，申請書類は，HPを参照してください.

https://www.bungo-ohno.jp/docs/2020111400016/

問い合わせ先：

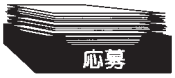
豊後大野市商工観光課

ジオパーク推進室ジオパーク推進係

電話：0974-22-1001（内線2459）

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します.



広島大学学術院（大学院先進理工系科学研究科地球惑星システム学プログラム）教員公募

所属（配属）：広島大学学術院（大学院先進理工系科学研究科　地球惑星システム学プログラム）

２．職名・人員：准教授又は助教　１名

※採用時の業績審査により，テニュア教員（准教授），テニュアトラック教員（准教授，助教）のいずれかに決定

採用予定年月日：2021年 6月 1日以降出来るだけ早い時期

任期又は有期雇用契約期間

【テニュアトラック制適用の場合】テニュアトラック期間：７年（准教授の場合）または５年（助教の場合）

専門分野：地球惑星科学

担当科目

(1) 教養教育科目：地球惑星科学概説，教養ゼミ　等　(2) 学部（専門教育科目）：熱水地球化学，資源地球科学　等 (3) 大学院（博士課程前期）：地球惑星物質分析法　等 (4) 大学院（博士課程後期）：地球惑星融合演習　等

＊この他，教養教育科目や他の学部・大学院の専門教育科目，全学事業も担当することがあります.

応募資格：次の要件をすべて満たす者

(1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む.）を有すること.（着任時までの取得見込みも含む.）(2) 専門分野における十分な研究業績があること.(3) 日本語及び英語で教育・研究指導ができること.

応募期限：**2020年12月21日（月）17:00（日本標準時）（必着）**

応募書類送付先・問い合わせ先

〒739-8527　広島県東広島市鏡山 1-4-1

広島大学学術院（大学院先進理工系科学研究科　地球惑星システム学プログラム）

教授　藪田　ひかる

TEL:082-424-7474, FAX:082-424-0735

E-mail:hyabuta@hiroshima-u.ac.jp

応募書類等公募の詳細は，HPを参照してください.

https://www.hiroshima-u.ac.jp/employment/kyoinkobo/senshin

2020代替企画・報告

2020年9月以降に開催された，名古屋大会の代替企画のご報告です．まだまだ進行中の企画もあります．詳細は学会HPを参照してください．

構造地質部会2020年度オンライン例会開催報告

2020名古屋大会の開催延期に伴う代替企画として10月7日（水）から9日（金）の日程で，若手を中心とした研究発表会，「構造地質部会2020年度オンライン例会」を開催した．例会の企画・準備と運営は構造地質部会委員（部会長：重松紀生）を中心として，地質学会の協力のもと実施した．参加登録・予稿投稿はオンラインフォームから受け付けたのち，予稿はウェッブ上に掲載した．発表はオンライン会議ツール（Zoom）を使用した口頭発表とし，発表時間は1件12分＋質疑3分とした．参加料・投稿料については，地質学会で契約されるZoomを利用できたこと，またペーパーレス化による印刷費を要しなかったことから両者とも無料とした．また本例会では，優秀な学生の発表者に対する「学生優秀発表賞」を設け，参加登録時に賞の応募を行った学生に対しては，賞選考委員を中心として審査を行った．

構造地質部会としてのオンライン例会は初の試みであったが，事前の参加登録者は82名（最大収容100名），3日間のZoom接続者は延べ150人を超えた．発表者21名のうち，学生17名，若手研究者3名であった．開催日の3日間をそれぞれ構造地質3セクション「テクトニクス」「岩石・鉱物の変形と反応」「沈み込み帯・付加体」に振り分け，1日あたり2時間程度ずつセッションを開催した．

各日とも発表や質問など会の進行において目立ったトラブルはなかった．質問の形式を1）Zoomのチャット機能を用いて質問を書き込んでもらい，座長が読み上げる，2）Zoomの挙手機能を用いて座長が指名する，及び3）質問が終わったタイミングで質問者がミュートを外し直接質問する，の3種を同時に併用した．座長からの呼びかけもあり，1）のチャットが多く用いられたが，チャットの性質上，質問が要点を抑えて短くまとまっており，発表・質疑ともに円滑に進行した．加えて，時間的に紹介できなかった質問についても後日発表者が質問者へメール等で返答するという使用例もあった．また2），3）の質問方法も用いられたが，特に進行上の問題は見られず，通常の学会会場さながらの議論も行われた．

オンライン例会の様子

「学生優秀発表賞」は賞エントリー15件の発表の中から賞選考委員の審査の結果，牛丸健太郎さん(京都大)，永田有里奈さん(静岡大)，大熊祐一さん(東京大学)の3発表に授与された．いずれのエントリー発表も内容や構成，説明方法が成熟されており，高い水準でまとまっていた．

学会期間中における議論の時間の確保やポスター発表の採用など改良すべき点はあるものの，本例会は今後のオンライン研究発表会の一つの形態を示すことができたように思う．学生や若手研究者の研究発表の機会が失われることのないよう，他の専門部会・支部会ともこのオンライン例会の運営手順を共有・発展させていきたい．

（幹事：**濱田洋平**）

表紙紹介

第11回惑星地球フォトコンテスト入選「Chocolate Box」

写真：**長谷川裕二**（長崎県）

撮影場所：長崎県 佐世保市白浜海岸

撮影者より：「九十九島」は長崎県北西部，北松浦半島の西岸に散在する２０８の島からなる小島群です．島の密度は日本一．また，日本で18番目に指定を受けた「外洋性多島海景観」を特色とする国立公園です．島々は主に砂岩でできており，砂が長い年月の間に高い圧力と高い温度で固まったものです．今回見つけた砂岩はまさに「チョコレートボックス」のように，チョコレート形の部分と仕切りの部分で成り立っています．おそらく波が影響して削り出されたと思われますが，どうしてこのような複雑な形になったのかは全く想像することができません．

審査委員長講評：九十九島（くじゅうくしま）は西海国立公園にある多島海で，作者はチョコレートボックスのような地層の形に注目しました．3点の組写真で応募されましたが，似たような構図なので1点のみの応募にすべきでした．レンズを絞り込んで，被写界深度を広くしたほうが良かったかもしれません．（白尾元理）

地質的背景：長崎県の九十九島は南北２地域にわかれており，北は北九十九島，南は南九十九島と呼ばれている．北九十九島は前期～中期中新世の野島層群，南九十九島はそれよりも下位の相浦層群からなる島々である．どちらも主に白色砂岩と暗灰色泥岩の互層からなり，海岸沿いに露出する砂岩には塩類風化（岩石表面に塩の結晶が析出する際，結晶が成長する圧力で岩石の表面を破壊する作用）によって形成されるタフォニと呼ばれるへこみが目立つ．枠に入ったチョコまんじゅうのようなこのふしぎな形状も塩類風化が原因の可能性がある．（小松原純子：産業技術総合研究所）

TOPIC

津波と集落

髙山信紀（正会員）

まえがき

あと数ヶ月で東日本大震災から10年となる．この間，様々な分野で調査・研究が行われ，復興が進められ，膨大な画像や文献が公開されている．本記事では，筆者が訪れたことがあるいくつかの津波被災地の思い出と，このたびインターネットで調べたこれら被災地の津波被害と復興の一端を述べてみたい．

(1) 南三陸町

2009年11月，宮城県南三陸町のＪＲ気仙沼線清水浜駅で下車した．駅は高所にあり，駅の下に集落があった（写真１）．駅の下で自転車を組立て，同町中心街の志津川から戸倉を通り，同町の津の宮にあった海の傍の民宿に泊り，翌日，戸倉から登米市柳津を経由し石巻に向かった．1年4ヶ月後に東日本大震災が発生するなど想像もしなかった．

南三陸町は，1896年明治三陸津波で死者1,240名，1933年昭和三陸津波で死者87名，1960年チリ津波で死者41名など大きな被害を受け，チリ津波後，高さ（標高．以下同様）4.6m程度の防潮堤の整備などが進められた[1]．その後，核家族化に伴う世帯数の増加などもあり，チリ津波浸水域の開発が進んだ[1]．東日本大震災の津波では，最大浸水高19.6m[2]，死者・行方不明者793名など大きな被害を受けた[1]．東日本大震災から半年後の2011年9月，岩手県洋野町から宮城県南三陸町までの三陸沿岸を車で見てまわった．清水浜駅は壊れ，駅の下にあった集落は無くなっており（写真2），志津川の市街は破壊され，津の宮の民宿は更地となっていた．

東日本大震災の後，国の“修正された防災基本計画では，今後の津波対策には二つのレベルの津波を想定し，＜1＞最大クラスの津波に対しては住民等の避難を軸に，ハード・ソフトの様々な施策を組み合わせる，＜2＞比較的発生頻度の高い一定程度の津波に対しては，人命保護に加え，財産の保護，地域の経済活動の安定化，効率的な生産拠点の確保の観点から，海岸堤防の整備を進めるとされた．”[3] 南三陸町では，避難路・避難場所の整備，高台に新たな宅地造成，防潮堤の整備（志津川は高さ8.7m[4]），公共施設の再配置等の復興計画が策定され[1] 復興が行われている．2016年6月，JR気仙沼線柳津駅からBRT（バス高速輸送システム）に乗車し，南三陸町に向かった．車窓より以前通った戸倉や志津川の復興状況が見えた．同町の歌津駅でBRTを下り，自転車で歌津館崎の魚竜化石産地を見学し泊浜の高台にある民宿に泊まった．高台の住宅は津波の被害は無かったが，海辺は更地となっていた．翌日，歌津，モノティスの化石を産する皿貝，高台に新しく造られた住宅街を通り，志津川のさんさん商店街で後続の友人達と合流し，以前泊まった民宿が移転した高台にある新しい宿に泊り，津波時の避難の話を伺った．

(2) 野田村

岩手県野田村は，明治三陸津波で死者261名，昭和三陸津波で死者6名など大きな被害を受けた[5]．村の中心街は，海の近くの平地にあり，海辺から順に第1堤防（高さ10.3m,12.0m），防潮林，第2堤防（三陸鉄道，国道45号線．高さ7.8m）が設けられていたが[6]，東日本大震災では，津波（津波高15.6m[6]）が第1堤防と防潮林を破壊し第2堤防を越えて中心街を襲い大きな被害が出た[5), 6), 7)]（村内の死者38名[7]）．その後，第1堤防（高さ14.0m），防潮林，第2堤防（三陸鉄道，国道45号線．高さ7.8m），緩衝地帯，第3堤防（盛土．高さ8～12m）の整備[5), 8)]，集団高台移転などの津波復興計画が策定され[9), 10)] 復興が行われている．

(3) 普代

岩手県普代村の普代集落は，普代川河口から約1.3km上流にあり，明治三陸津波で死者95名，昭和三陸津波で死者29名など大きな被害を受けた[11]．1959～62年度に集落の傍に高さ15.5mの防潮堤（写真3）が設けられたが[12]，その後，防潮堤の外側に，1968年に普代小学校が新築され（普代小学校ウェブサイトより），1975年には三陸鉄道普代駅が設置され駅周辺で宅地化が進んだ[11]．1972年に海岸線から約500m 上流の普代川に高さ15.5mの水門の築造が開始され1984年に竣工した[7), 12), 13)]．東日本大震災の津波では，普代の水門は破損（写真4）したものの浸水を最小限に食い止め，普代の集落は被害がほとんどなかった[6), 7), 11), 13)]．なお，“実際には到達した津波は高さ約20mで水門を超えており，（略）「素早く高台に避難することこそが重要である」という教訓を後世に伝承できる施設でもある．”[13] との警鐘もある．

(4) 田老

岩手県宮古市の田老地区（旧田老村，旧田老町）は，明治三陸津波で死者・行方不明者1,859名，陸地の生存者は36名のみという大被害を受けた[14]．津波後，村当局は永久的な「防浪工事」を計画し義援金で津波危険地帯にある全集落を山麓に移転する工事にかかり，5～6戸が計画に沿って高所に移転したが，工事は挫折し，移転した家も１戸を除き元に戻り集落を再興した[15]．昭和三陸津波でも，死者・行方不明者911名など大きな被害を受け，集団高台移転も検

（写真左から）写真1　清水浜（2009年11月）．写真2　清水浜（2011年9月）．写真3　普代防潮堤（2011年9月）

（写真左から）写真4　普代水門（同左）．写真5　田老第1防潮堤（2011年9月）．写真6　田老第2防潮堤（同左）

討されたが，適地が見当たらなかったこと，村民のほとんどが漁業従事者であったことなどから，村独自で1934年から高さ10mの防潮堤の建造を開始，翌年より県の事業となったが1940年に戦争で中断され，1954年に再開，1958年に完成した[14), 15)]．避難路も整備され，1960年のチリ津波（最大波高3.5m）では人や建物の被害はなく，その後，第2防潮堤（1962～65年度），第3防潮堤（1973～78年度）も建造され，自治会ごとの避難訓練も行われていた[14), 15)]．

東日本大震災では，津波（津波高推定16.3m[6)]）が第3防潮堤と第1防潮堤（写真5）を越え，第2防潮堤を破壊し[6)]（写真6），死者・行方不明者181名など大きな被害を受けた[7), 14)]．その後，防潮堤の整備（一線堤高さ14.7m，二線堤高さ10.0m）[8), 16)]，浸水が予想される区域の高台移転，災害危険地域の住宅建築制限，一部地域の嵩上げなどの田老地区復興まちづくり計画が策定され[16), 17)]復興が行われている．

(5) 吉浜

岩手県大船渡市の吉浜地区（旧吉浜村）は，明治三陸津波で死者・行方不明者204名など大きな被害を受けた[18)]．その後，低地にあった集落は山麓の高所に移転し，高さ8.2mの防潮堤や防潮林も築造され，昭和三陸津波では防潮堤は流出したが被害は比較的小さかった[18)]．東日本大震災では，津波が防潮堤（高さ7.15m[12)]）を破壊し水田が流出するなどしたが，高台の集落の被害は小さかった[7), 18)]．復興に当たり，防潮堤を震災前の高さとするかその倍の高さとするか地元住民の討議と投票が行われ[19)]，震災前の高さ7.15 mとされた[4), 19)]．

(6) 仙台平野

2013年9月，東北大学で開催された日本地質学会大会の巡検「2011年東北地方太平洋沖地震津波と869年貞観地震津波の浸水域と堆積物」（案内者:東北大学 菅原大助氏，箕浦幸治氏）[20)]に参加した．仙台平野の津波被災地の他，弥生時代の遺跡発掘現場と仙台平野の中に掘削されたピットにも案内して頂き，貞観と弥生時代の津波堆積物などについて説明を伺った．

文献によれば，三陸地方は縄文時代以降何回も超巨大津波があり[5), 21)]，津波前後で遺跡数の減少などの変化が生じている[21)]．宮城県仙台市の沓形遺跡では水田跡が約2,000年前の津波堆積物に覆われ[22)]，津波後，水田は放棄され，付近の集落は古墳時代前期に再興された[23)]．300年以上集落が再興されなかったのは，津波へのおそれが伝承されたというより，水田の上に堆積した土砂の撤去が困難だったこと，当時は海岸線が現在より内陸約2kmにあり[22)]排水や除塩[24)]が困難であったこと（大地震による土地の沈降もあったかもしれない），水田や集落に適した土地が他にあったことなどによるのではないだろうか．

(7) 千葉県九十九里浜

九十九里浜は，江戸時代，イワシの地引網漁が盛んで，それまでの海から離れた集落から海寄りにも集落が形成された[25)]．1703年元禄津波では九十九里浜で2,000名以上が死亡したと言われており，各所に供養塔がある[26)]．しかし，その後，更に海の近くにも集落が形成された[25)]．東日本大震災では，津波が千葉県外房沿岸にも襲来し，特に九十九里浜北端に位置する千葉県旭市の飯岡地区（津波高推定7.6m）は大きな被害を受けた（市内の死者14名）[27)]．2019年4月，友人達と飯岡にあるヨードを含む黒湯の温泉民宿に泊まった．この民宿は津波で流され，その後新築されたもので，御主人より当時の避難の話を伺った．翌日，嵩上げされた海岸堤防（高さ6.0m）の上の九十九里浜サイクリングロードを南下した．海が輝いていた．

あとがき

2011年9月，車で大船渡市越喜来の浦浜地区を通った．ここも大きな被害を受けていた（死者・行方不明者28名[28)]）．道路脇の広場に手作りの児童公園[29)]があったが，雨が降りそうな天気で人影はなかった．公園に大きな看板があり，手書きで次のように書いてあった（写真7）．「ここがオキライですか？　ハイ！！ でもでもだーい好きです！」

（注）1）～29）の参考文献は学会HPに情報を掲載しています．
http://www.geosociety.jp/faq/content0930.html

写真7　手作りの児童公園（2011年9月）

☆関東支部

報告

ミニ巡検「大磯丘陵北東部のテフラ」実施報告

関東支部では，本来2月16日に開催予定であったが悪天候により中止となったミニ巡検の代替企画として10月4日（日）に本巡検を実施した．笠間友博氏（箱根ジオミュージアム・関東支部幹事長）を講師として，15名の参加者とともに大磯丘陵北東部の4か所の露頭を見て歩いた．

おりしも今年初め頃より新型コロナウイルス感染症が蔓延し，関東支部では技術伝承講習会やフィールドキャンプなど軒並み中止となったが，支部活動を再開するタイミングを見計らっていたところ，世間では7月末よりGoToキャンペーンが実施され始めたこともあり，借上げバスを使用せず徒歩移動型の巡検であれば3密になることもなく比較的安全に巡検が実施できると考えて，非接触式体温計による検温，手指のアルコール消毒，マスクの着用など考えられる感染症対策を行った上で実行した．もちろん，全員のお互いに「うつさない・うつらない」という信頼関係があって成立するものである．無事巡検が実施できたことを講師の笠間氏をはじめ皆様に感謝したい．

（神奈川県温泉地学研究所　**小田原　啓**）

写真：栗久保の露頭（神奈川県平塚市土屋）前での集合写真

参加者の感想

10/4（日）に開催された，地質学会関東支部主催の火山灰ミニ巡検に参加した．もともとは2月に開催予定であったが，天候不順により延期となり，さらに新型コロナウイルスの影響で代替日程がこの時期となった．集合場所では非接触式体温計による検温が実施されたほか，マスクの着用を事前に依頼するなど，感染症対策が行われていた．

STOP1は「寺分の露頭」あるいは「栗窪の露頭」と呼ばれる，比較的知名度の高い露頭である．露頭の最下部にはTB-9テフラを挟在するローム層（T-Bテフラ累層）が見られ，それを不整合に覆ってMIS5.5の海成層である吉沢層が分布する．吉沢層の下部は主にラミナの発達する砂層からなり上部に向かってシルトや泥炭に漸移する．吉沢層の上部から軽石を主体としたテフラが挟在するようになり，観察した範囲では下位からKlP-3～KlP-7のテフラが見られた．いくつかのテフラは軽石のほかに火山灰（火山豆石を含む）を主体とする部分を伴うことを特徴とするが，この火山灰はマグマ水蒸気爆発の産物であり，噴出源である箱根火山に湖などの水域があったと推定されることが案内者から紹介された．また，参加者からはこれらの火山灰部分から淡水の珪藻化石が産出することも紹介された．観察されるテフラは大部分が箱根火山起源であり，厚いテフラが高頻度で挟在することから箱根火山の活動が非常に活発な時期であったことが分かること，観察されるテフラのうちTB-9及びKlP-4は角閃石を含むことから箱根火山以外が起源と推定され，そのうちTB-9は先小御岳火山起源の可能性が指摘されていることなどが案内者から紹介された．

STOP1-1はSTOP1から約300m南方の道路沿いの露頭である．東西約200m程度にわたって断続的に露出しており，下位からTB-1～TB-7テフラを挟在するT-Bテフラ累層が観察されるが，TB-2テフラはこの露頭では明瞭な軽石層として識別されなかった．この地点はSTOP1より数m程度標高が高いが露出するテフラがSTOP1で見られたTB-9より下位のテフラであることから，T-Bテフラ累層が北に傾斜していることが分かる．TB-1テフラは川崎市の生田緑地周辺の多摩丘陵ではバヤリースと呼ばれる軽石層に対比され，箱根火山から火砕流を伴う大規模なテフラが多数供給されたカルデラ形成期の噴出物であること，TB-2・3・5テフラは角閃石を含み箱根火山以外が給源である可能性などが紹介された．

STOP2は土取場跡地の大露頭である．露頭が切り立っているため遠方からの観察となった．大部分がMIS7.5の海成砂層（T-b層または早田層）からなり，上部にT-Bテフラ累層が重なるのが観察される．かつては砂層中にTCu-4テフラが観察されたが，露頭の下部から中部にかけて崖錐に埋もれつつあり，観察できなくなっている可能性があるとのことであった．

STOP2-2はSTOP2から約350m北方の道路沿いの露頭である．かつては道路沿いにSTOP2で見られた地層が連続的に観察できたそうであるが，現在は砂層のごく一部とTB-6・7・8テフラのみが観察可能である．TB-6・7・8テフラはいずれも粗粒の軽石を主体とする厚いテフラ層である．TB-8は角閃石を含むことが紹介されたが，巡検で観察したほかの角閃石含有テフラと異なり，軽石の粒径や層厚が大きく，見かけはほかの箱根火山起源のテフラに似ている．箱根火山でも角閃石を含むマグマの活動があったのか，あるいは箱根以外の火山からこれほどの規模のテフラが供給されたのか，どちらにしても興味深い事例であると思う．

今回は10時集合，15時解散という短時間の巡検であったが，テフラと海水準変動と箱根火山の活動の関係を観察することができ，内容は充実していた．私的な調査も含めて今回が今年度初めての野外観察だという参加者もおり，新型コロナウイルスの影響が調査研究にも及んでいることが改めて実感された．しかし，巡検は風通しの良い屋外で行われ，観察もそれほど密集して行うものでもない．今回行われていたようにマスクの着用や検温がしっかりされていれば，巡検を行っても問題ないと個人的には思うので，今後は巡検の企画が以前と同じ頻度に増えることを期待したい．

（（株）ダイヤコンサルタント　**下釜耕太**）

支部コーナー

☆関東支部

お知らせ

「オンライン講演会 －おうちで学ぶ恐竜研究の最前線－」のお知らせ

関東支部では会員および非会員の方を対象に，オンライン講演会を行います．新型コロナウィルス感染症の心配と切り離せない日々が続いていますが，今回は夢のある「恐竜」の話題で，非日常的な地質学的時間スケールの旅を体験していただければと思い，下記のように計画いたしました．是非ご参加ください．

主催：（一社）日本地質学会関東支部
日時：2020年12月12日（土）13：00～15：00
対象：会員および非会員　CPD 2単位（希望者）
参加費無料・要事前申込
申し込み期間：11月12日（木）より12月5日（土）まで
申し込み先：日本地質学会ホームページ，関東支部内，講演案内のグーグルフォームから
関東支部　http://www.geosociety.jp/outline/content0201.html
募集人数：75人（先着順）
Zoomによるオンタイム，オンライン方式（講演内容の録画記録はご遠慮ください）

プログラム
12：15～12：45　視聴者入室
13：00～13：05　支部長挨拶
13：05～13：45　**「日本の恐竜～発掘と研究～」群馬県立自然史博物館学芸員　髙桑祐司氏**
【演者より】「サンチュウリュウ」など1980年代の歯や部分骨の発見，さらにその後のアマチュアによる発見を端緒として，これまでに多くの恐竜に関する学術調査が日本各地で行われてきました．恐竜が見つかった地域の中には今も発掘調査を実施している地域もあれば，研究成果を元に既存の博物館の拡張や新たに博物館が設置された地域もあります．この講演では，国内各地の恐竜発掘，恐竜研究の現状を紹介し，今後の展望について考えたいと思います．
13：45～14：00　質疑応答　チャット方式　司会により進行
14：00～14：05　準備休憩
14：05～14：45　**「最新研究で明らかになる恐竜のくらし」筑波大学助教　田中康平氏**
【演者より】近年，恐竜研究は急速なスピードで進んでいます．これまで分からなかった恐竜たちの生き生きとした生態が，様々な方法を使って明らかになりつつあります．例えば，キラキラと輝く羽毛を持つ恐竜や，皮膜で飛翔した恐竜，水の中で生活していた恐竜など，多様な恐竜たちの存在が見えてきました．この講演では，私が専門とする恐竜の繁殖行動や子育てを中心に，恐竜たちの多彩なくらしぶりをお話ししたいと思います．
14：45～15：00　質疑応答　チャット方式　司会により進行
15：00　幹事長挨拶　（終了）

問い合わせ先:関東支部幹事長　笠間友博（kasama@mh.scn-net.ne.jp）

日本の地質学 100 年：日本地質学会 100 周年記念 再販のお知らせ

書架整理のため再販いたします．残部稀少！　最後の購入チャンスです．
貴重なアーカイブをこの機会にぜひお買い求めください！

日本地質学会編，1993 年 4 月発行．706 ページ，27cm，無線綴じ，布張上製本．
再販特別価格：3,000 円（税・送料込）　（参考）当初価格：8,000 円
再販期間：2020 年 12 月から 2021 年 3 月 31 日まで
お求めは，ジオストアもしくは，学会事務局までお問い合わせください．

目次

第 1 章　日本列島の地質研究の歴史
　I.　古典的日本列島像の形成
　II.　日本列島形成論の展開
　III.　新しい島弧論の展開
第 2 章　日本列島をめぐる自然環境
　I.　地球環境の変遷
　II.　地質災害
　III.　自然開発
第 3 章　地下資源の開発
　I.　金属・非金属
　II.　石炭資源
　III.　日本の石油鉱業と石油地質学
　IV.　地熱・温泉
　V.　地下水
第 4 章　第二次大戦前・中の海外地質調査
第 5 章　国際化の中での日本地質学
　I.　国際交流の歴史
　II.　国際学術組織への参加と対応
　III.　国際共同研究事業への参加
　IV.　海外学術研究
　V.　地質調査所を中心とした国際交流
第 6 章　地学教育
　I.　戦前の地学教育
　II.　戦後の地学教育
　III.　地学教育の回顧と展望
　IV.　教育制度と地学教育の年表

日本地質学会史年表

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について

2021年度（2021．4〜2022．3）学部学生割引・院生割引会費の受付中

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生・院生（研究生）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．該当される会員は下記の書式にて申請書を提出してください（郵送に限る）．

★注意★
毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請してください．
2021年度から社会人になるかたは，割引会費の申請はできません．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2−8−15　井桁ビル6階
一般社団法人日本地質学会

2021年度一般社団法人日本地質学会
学部学生割引・院生割引会費申請書

一般社団法人日本地質学会　御中

私は，運営規則第2章第7条第1項（1）に基づき，2021年度会費の

学部学生割引　・　院生割引　（いずれかに○）

を申請いたします．

申請日　　年　　月　　日

会員番号：

会員氏名：

現在の所属・学年：

大学	学部　　学科	年在学中
大学大学院	研究科 専攻	前期 ・ 後期 年在学中

2021年４月からの所属：（現在の所属と同じ場合には「同上」でも可）

大学・大学院名	学部学科・研究科専攻名

上記，本学の学生につき，学部生・定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教員（等）
所属：
氏名：　　印

最終締切
2021年3月31日（水）

2021 年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会運営規則により，次年分の会費を前納下さいますようお願いいたします．2021 年 4 月～ 2022 年 3 月の会費額は下記の通りです．

会員資格	2021 年 4 月～ 2022 年 3 月分会費
正会員	12,000 円
〃 （院生割引）※　要申請	8,000 円
〃 （学部学生割引）※　要申請	5,000 円

※学部に在籍している学生の方，定収のない大学院生（研究生）の方で，それぞれ所定の書式で申請をされた方にのみ割引会費を適用します．なお，2020 年度までの学部学生割引・院生割引会費についての申請は終了しておりますので，2021 年度会費にのみ適用となります．

1．自動引落を登録されている方の 引き落とし日は 12 月 23 日（水） です．

2021 年度分会費の引き落とし日は 12 月 23 日です．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承下さい．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」，「SMBC」などと表示されますので，必ずご確認下さい．

2．自動引き落としをご利用下さい．

12 月 23 日の引き落としには間に合いませんが，請求書に同封の書式にてぜひ自動引き落としのお申込をお願いいたします（2021 年 6 月にも引き落とし手続きを行う予定です）．自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用して頂きたく，ご協力をお願いいたします．自動引き落としを希望する方は，「自動払込利用申込書」（ニュース誌 10 月号巻末掲載）をお送り下さい．

3．上記以外の方（お振り込み）

12 月中旬頃までに請求書兼郵便振替用紙をお送りいたします．折り返しご送金くださいますようお願いいたします．

一般社団法人日本地質学会　会計委員会

一般社団法人日本地質学会運営規則

第２章　第７条（会　費）

学会は会費の年額（４月１日～翌年３月末日）を次のように定め，会員は当該年度の初日までにこれを支払うこととする．入会の際には当該年度の年額を支払うこととする．

（1）正会員：12,000 円
　ただし，大学学部ならびに大学院に在籍するものは，毎年度ごとに所定の申請書を提出した場合，それぞれ学部学生割引と院生割引を適用し，年会費を 5,000 円ならびに 8,000 円とする．これらに準じる身分の学生についても同様の扱いとする．

（2）賛助会員：１口 25,000 円，２口以上
　ただし，諸般の事情により理事会が認める場合は，１口とすることができる．

2　会費の変更は，理事会の議決により，総会の承認を得なければならない．

3　会員は，上記に定める会費を当該会計年度の前に一括納入しなければならない．ただし，やむを得ぬ理由により理事会が認める場合は，分納もしくは減免することができる．

4　会費を滞納した会員については次の処置をとる．

（1）滞納期間が６ヶ月以上となった場合には，地質学雑誌等の会誌の送付を停止する．

（2）滞納会費が納入された場合には，送付を停止した地質学雑誌等の会誌の送付を再開する．ただし，会誌の在庫の関係で送付ができないことがある．

（3）地質学雑誌への投稿，講演会での講演を制限することがある．

（4）会費支払いの督促を受けつつ，正当な理由なく，かつ，退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は，滞納４年度目をもって，理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする．

学　会　記　事

日本地質学会2020年度 第3回理事会議事録

日時：2020年9月12日（土）14:00～17:00
【Web会議形式】
出席役員　理事（44名）：芦寿一郎・天野一男・安藤寿男・磯崎行雄・ウォリス サイモン・内野隆之・大藤　茂・岡田誠・緒方信一・尾上哲治・笠間友博・狩野彰宏・亀田　純（14:30退出）・亀高正男・川端清司・北村有迅・清川昌一・小松原純子・小宮　剛・齋藤　眞・坂口有人・佐々木和彦・杉田律子・高嶋礼詩・竹下　徹・辻森　樹・内藤一樹・中澤努・納谷友規・奈良正和・西　弘嗣・根本直樹・野田　篤・早坂康隆・平田大二・星　博幸・細矢卓志・保柳康一・松田達生・三田村宗樹・道林克禎・矢島道子・矢部　淳・山口飛鳥　　監事（2名）：岩部良子・山本正司
欠席役員　理事（5名）：上松（渡邉）佐知子・亀尾浩司・後藤和久・藤井正博・松田博貴
＊磯崎会長より，名古屋大会代替企画が様々に進んでいる状況が紹介され，WEBのメリットも生かして，コロナ禍でも歩みを止めない活発な学会活動をすすめていきたい旨の挨拶があった．
＊成立要件：理事総数 49名の過半数 25名 本日の出席者44名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数 23名
＊開催にあたって，北村理事および内野理事を書記に指名した．

報告事項
1. 執行理事会報告（中澤常務）
1）中澤常務理事から8月及び9月の執行理事会の議事報告があった．
2. 理事・委員会・研究委員会の報告
1）総務委員会（緒方理事）
・会員動向の報告（2020年8月末現在：3435名（昨年比-174））があり，4月以降の逝去会員に対し黙祷を捧げた．
・会員管理へのクラウドシステム導入，会計における収支改善策，会員増加策について検討中との報告があった．
2）名古屋大会代替企画の進捗状況
・表彰・記念講演（9月13日YouTube Live）・ショートコース（9月19日；10月24日）（星理事）：Zoomの契約を100名以上に変更．多数の参加者への対応を可能とした．ショートコースは3回目開催も検討する．
・支部オンライン例会（平田副会長）：四国・西日本支部が開催予定．
・JABEEシンポジウム代替企画（オンライン）（佐々木副会長）：2021年3月7日（日）14時～16時半開催予定．
・ジュニアセッション（デジタルポスター）（高嶋理事）：応募数が少ないので周知協力の依頼があった．9/30募集締切．10月中に理事が審査を行う予定．
・キャリアビジョン誌の制作（坂口理事）：現在21社より掲載の申し込みがあった．
・構造地質部会オンライン例会（中澤常務理事）：10/7-9開催予定．学生の発表に対して部会独自に学生優秀発表賞を授与する（→審議事項へ）．
・コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム（星理事）：9月27日の開催案内があった．
3）地質学雑誌編集委員会（大藤理事）
・最近の編集状況に関する報告があった．
・斎藤理事から，冊子体のカラー印刷無料は投稿先の重要な選択基準になるという意見があった．これについては以前も検討したが，財政上の理由により実現は難しいと回答があった．
・天野理事より，編集委員会からジオパーク支援委員会への特集号企画要請に対し，ジオパークに関する原稿は，歴史や経済活動等地質学以外の内容も含めざるを得ないため委員会内では投稿先としての適性に疑問の声があることが紹介された．一方で教育・普及などの重要性から本特集号を地質学雑誌で企画する意義も強調され，理事会でも同様の意見があがった．今後支援委員会と編集委員会で特集号出版に向けて前向きに検討をすすめる．
・コロナ禍における海外の対応例（例えば，バーチャル地質学）の紹介原稿の掲載や外国人向け投稿規程の充実の提案が竹下・杉田理事からそれぞれあった．
4）Island Arc編集委員会（狩野理事）
・投稿数の増加など，最近の編集状況に関する報告があった．今後の参考のためにIF上昇（19年：0.893→20年：1.655）の要因を分析し，次回理事会で報告することとなった．

審議事項
1. 地質標準化委員会の新設と委員会メンバーについて（中澤常務理事）
地質標準化委員会の新設と所掌，委員構成（委員長　辻森　樹，委員3名）について提案があり，提案通り承認された．また新委員会では，古第三紀・新第三紀の名称に関する議論も視野に入れて欲しい旨の意見があった．
2. 理事会規則改正の提案（中澤常務理事）
地質標準化委員会新設および専門部会の表彰制度に関わる理事会規則の改正の提案があり，提案通り承認された．今後は支部同様，専門部会も独自の表彰制度を設置することができる．また支部・部会における賞と学会の賞とを明確に区別するためWEBでの公表方法などを検討する．
3. 各賞選考委員会規則改正の提案（磯崎会長）
学会賞等人物の選考を要する各賞選考検討委員会（各賞選考委員会の諮問機関）の委員構成の変更に関する規則改正について提案があり，提案通り承認された．
4. 地質学雑誌投稿編集出版規則改正（大藤理事）
誤字等の軽微な修正に加え，非会員からの原稿やデータポリシーに関する文言追加などの規則改正が提案通り承認された．
5. 表彰制度の見直しについて（磯崎会長）
現行の受賞対象の変更や賞の新設などについて提案があり，大筋で了承され継続審議となった．2021年の総会で承認を受けられるようさらに検討を進める．

2020年10月6日
理事：議長 道林克禎
理事：副議長 山口飛鳥
代表理事：会長 磯崎行雄
（以下，出席理事氏名省略）

2020年度第4回執行理事会議事録

期日：2020年9月12日（土）10:00～12:30
【WEB会議】
出席者：磯崎会長・平田・佐々木・中澤・岡田・緒方・亀高・辻森・ウォリス・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋
事務局　澤木
欠席者（委任状提出あり，カッコ内は委任者）：なし
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者17名，委任状0名，合計17名の出席
＊前回議事録（20-3回）の確定．

Ⅰ　審議事項
1. 理事会審議事項及び資料確認
①地質標準化委員会の新設と委員会メンバーについて（中澤）
②理事会規則改正の提案（中澤）
③各賞選考委員会規則改正の提案（磯崎会長）
④表彰制度の見直しについて（磯崎会長）
⑤地質学雑誌投稿編集出版規則改正（大藤）
2. 代替企画の今後の取り組みについて（星）
・ショートコース：第3回以降も企画することを検討
・コロナ渦での地質学教育サイバーシンポ：第2回（11-12月）も検討
3. 表彰制度の見直しについて（磯崎会長）
おもな提案は以下の通り．
・日本地質学会賞を学術・功績の２つに分ける名称や功労賞との棲み分けについて要検討
・50歳未満を対象とする賞（ナウマン，松山基範，小林貞一賞　どの名称にするか？）
・小澤賞・柵山賞の対象年齢を37歳未満から博士号取得後5年未満へ変更

・小藤文次郎賞　評価対象論文を過去2年間から過去5年間へ変更
・地質学雑誌特別賞を新設
・奨励賞：35歳未満から32歳未満へ変更
・ジュニアセッション優秀賞・奨励賞を新設
21年総会承認，22年度選考からの反映を目指して，今後理事会，執行理事会で議論を進めていく．

Ⅱ　報告事項

1. 全体的報告
・8月4日付令和2年7月豪雨災害についての会長談話を発表した．（→HP, ニュース掲載）
・名古屋大会の代替企画について（状況報告）
①表彰・記念講演（星）：9/13 Youtubeライブ配信予定で準備中．
②ショートコース（星）：第1回分8/5-9/7（月）の申込者が定員を超えたため，zoom契約内容をアップして全員受け入れることとした．第2回分 9月下旬より受付開始予定．
③地質学教育に関するサイバーシンポ（星）
④支部単位の学術発表会（平田）：四国支部が12月に講演会を開催予定．
⑤JABEEシンポ代替企画としてのオンラインシンポジウム（佐々木）
⑥ジュニアセッション（デジタルポスター）（高嶋）：参加校申込受付中（9/30締切）．Zoomを利用した直接対話形式での生徒とのやりとりの実施を検討したが，再開後の学校側の負担が大きく，日程調整も難しいことから今回は見送ることとした．従来通り行ってきた研究者からの講評を充実させる．
⑦地質系若者のためのキャリアビジョン誌（坂口）：掲載企業募集中
⑧構造地質部会オンライン例会：10/7-9開催予定．9/28予稿受付締切．学生への部会独自の表彰を希望．このため，部会内で表彰に関する細則を作成し，理事会規則に専門部会の表彰制度に関する条項の追加を提案する（→理事会審議事項へ）．
2. 運営財政部会（緒方・亀高）
1）総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
・山田科学振興財団2020年研究援助募集（10/31締切）（→geo-flash, ニュース9月号掲載）
・笹川科学研究助成募集（9/15-10/15）（→geo-flash, ニュース9月号掲載）
・令和2年千葉県職員採用選考考査（地質職）実施案内（8/25-9/18）（→geo-flash）
・公益財団法人深田地質研究所より理事長交代の挨拶があった（新理事長：千木良雅弘）．
・第30回環境地質学シンポジウム（11/27-28）の共催依頼があったが，実質的な協力内容に即して，後援として承諾する旨回答する．
＜会員＞
①今月の入会者（4名）
正会員（2名）：鎌田隆史(退会再入会)・田中浩紀（除籍再入会）
正（院割）会員（1名）：山本一平
正（学部割) 会員（1名）：柴﨑勇真（高校生）
②今月の退会者（2名）
正会員（2名）：三浦大和・谷口友規
③今月の逝去者(2名)
名誉会員（1名）：斎藤常正（逝去日2020年8月1日）
正会員（1名）；小林二三雄（逝去日2020年7月25日）
④2020年8月末会員数
賛助：27，名誉：43，正会員：3365［正会員：3281，正（院割）会員：82，正（学部割）会員：2］合計3435（昨年比-174）
例年より減少数が100名程度多い．年会延期に伴う新入会員の減と考えられる．
＜会計＞
・ワイリー 社より2019年度Island Arc ロイヤリティーの入金があった．（約220万円）
・本年度日本地質学会賞受賞者の山路　敦会員より，賞金10万円を寄付したいとの申し入れがあり，寄付取扱規則に基づいて，ご厚志を受けることとした．
＜その他＞
・総務委員会活動報告：会員管理でのクラウドシステム導入/学会会計における今後の収支改善策/総務委員会からの会員増加策について委員会内で意見交換を行った．
具体的には，
・学会誌，ニュース誌の電子化＋オンデマンド印刷を検討
・学会関係の会議について，対面が必要なものと，リモート開催でよいものの仕分けを行う
・学生会員・院生会員のメリットをアピールし，新規会員増を図る
・院生会員会費を安くすることを検討
・永久会員制度（退職時に数年分の会費を払うことで，永久会員となる）の検討
3. 広報部会（坂口・小宮）
1）広報委員会（坂口）
特になし
4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）
1）行事委員会（星）
・名古屋大会の代替企画について（→全体報告へ）
2）専門部会連絡委員会（辻森）
・専門部会の現状について、登録者数が極めて少ない部会が存在する．活動実態の把握が必要などの報告があった．部会改変等の必要性について議論するため，部会の現状を理事会で共有するとよいなどの意見が出た．
3）国際交流委員会（ウォリス）
・コロナ禍で書面送付が遅れていたモンゴル地質学会とのMOU更新手続きが完了した（2020年5月より5年間）．
・台湾地質学会とのMOU更新予定（2020年9月更新予定）．更新のセレモニーをオンラインで実施することも検討中．
5. 編集出版部会（大藤・狩野）
1）地質学雑誌編集委員会(大藤)
(1）編集状況報告（9月8日現在）
・2020年投稿論文：49［内訳］論説24（和文23・英文1），レター8（和文8），総説1（和文1），ノート3（和文2，英文1），報告4（和文4），口絵1（英文1），巡検案内書8
査読中：29，受理済み：20（うち特集号4案内書2)
・126巻8月号：特集号「法地質学の進歩」（世話人：杉田律子）6篇（68頁，発行済）
・126巻9月号：通常号　論説3篇，レター1篇，報告2篇（約65頁，校正中）
(2）投稿編集出版規則の改正案（→理事会審議事項へ）
・誤字等文言の軽微な修正に加え，非会員からの原稿受付やデータポリシーの改訂（オープン化を進める方向）についての文言追加を理事会に提案する．
2）アイランドアーク編集委員会(狩野)
・1ヶ月で4本の新規掲載，3つの特集号が進行中など，直近の編集状況の報告があった．またクラウド型LaTexを使ってプレプリントのアップが出来る旨の紹介があった．
・ピクトリアルの充実やプレプリントを公開する動きへの対応について意見交換があった．
3）企画出版委員会（小宮）
特になし
6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）
1）地学教育委員会（高嶋）
・ジュニアセッションについて（→全体報告へ）
2）地質技術者教育委員会（佐々木）
・名古屋大会代替企画「JABEEオンラインシンポジウム」の開催日を2021年3月7日（日）とし，開催概要をまとめた．
・JABEE地球・資源分野の運営委員会制度・組織変更については8月1日の執行理事会で報告したとおり．資源・素材学科からの正式な説明・依頼状が8月中に送付されることとのことであったが，9月10日現在未着．同学会に確認したところまだかかるとの回答であった．
・JABEEからWEBでの審査員員研修フォーラム（9月14日）に，佐々木副委員長，藤井委員，細矢委員の3名が参加予定．
3）生涯教育委員会（矢部）
・延期となっていた地質の日関連イベント「街中ジオ散歩」は中止することとした．これまでに実施したイベントの内容等について公開準備を進める．
・「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」に博物館・ジオパーク関係の講演者2名を推薦した．
・2022年の国際鉱物年に向けた企画について委員からの提案等を募集しており，鉱物科学会との連携も検討中．
4）その他
8/16地震火山地質こどもサマースクール三学

会連合企画委員会，運営員会（zoom会議）に松田理事が参加．地質学会からの担当委員は下記の通り変更．三学会連合企画委員会：星理事→松田理事に変更、運営委員会：星理事→行事委員会から選出予定．

7. その他執行理事会の下に設置される委員会

1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1）ジオパーク支援委員会（平田）
「ジオパークコンソーシアム（仮称）」の設立について，今後準備会議には天野委員長，利光委員が担当として出席する．9月中に次回会議開催予定．今年度中のコンソーシアム設立をめざしている．

2）地学オリンピック支援委員会（高嶋）
本年度の日本地学オリンピックの実施概要などが紹介された．予選は全てオンラインで実施．本選以降もオンラインの可能性あり．

3）支部長連絡会議（平田）
各支部に対して，名古屋大会代替企画の検討依頼を行った

4）地質災害委員会（松田）
令和2年7月豪雨災害および令和2年台風10号による災害情報（リンク）を学会HPに適宜掲載した．

5）名誉会員推薦委員会（佐々木）
2020年度委員を2020年12月に選定し，以後活動の予定．

6）各賞選考委員会（中澤）
特になし

7）男女共同参画委員会（委員長 堀　利栄；代理 中澤）
学会内の男女共同参画関係の統計データの解析を実施し，その結果を5月JpGUで発表した．またJpGUセッションの内容などの報告があった．今後は委員会の名称変更，学会各賞受賞者の多様性推進などを検討する予定．

8）法務委員会（中澤）
特になし

9）連携事業委員会（中澤）
特になし

9. 研究委員会

1）地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）
特になし

2）南極地質研究委員会（委員長　小山内康人）
特になし

以上

2020年10月10日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯﨑行雄
署名人　執行理事　中澤　努

2020年度第5回執行理事会議事録

期日：2020年10月10日（土）13:00～17:30
【WEB会議】
出席者：磯﨑会長・平田・佐々木・中澤・岡田・緒方・亀高・辻森・ウォリス・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋（15時より）
事務局　澤木
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者17名，委任状0名，合計17名の出席
＊前回議事録（20-4回）の確定．

Ⅱ　報告事項

1. 全体的報告

・名古屋大会の代替企画について（状況報告）
①2020年度名誉会員証授与･永年会員顕彰ならびに各賞受賞式・受賞記念講演会（星）：9/13（日）にオンライン（Zoom）で実施．視聴者の瞬間最大数は92名．YouTubeで限定公開中．総視聴回数739回（10/5現在）．
②第１回ショートコース（星）：9/19（土）にオンライン（Zoom）で実施．午前は辻森樹会員（東北大）による「東北アジア及び日本列島の地体構造発達史」，午後は沢田 輝会員（海洋研究開発機構）による「大陸成長から見るたのしい太古代研究」．100名が参加．第2回（オンライン）を10/24（土）に開催予定．
③第１回「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」（星）：9/27（日）にオンライン（YouTubeライブ配信）で実施．プレゼンターは後藤和久会員（東京大），乾睦子会員（国士舘大），岡田　誠会員（茨城大），坂口有人会員（山口大），渡来めぐみ会員（茗渓学園中学校高等学校），松永　豪氏（大阪府立泉北高等学校），渋谷美月氏（北海道博），白井孝明会員（萩ジオパーク）の8名．常時100～120名程度の視聴者があり，チャットによる質問・コメントも多く寄せられた．視聴者の瞬間最大数130名．YouTubeで公開中．総視聴回数720回（10/5現在）．第2回を11/29（日）に開催予定．
今後も定常的な行事として開催する方向で議論があった．そのためには別途担当者を置くことや専門部会からの協力が必要．今後の行事の計画，進め方について，叩き台を次回星理事より提案してもらうこととした．
④支部・部会単位の学術発表会：構造地質部会オンライン例会が開催された（10/7-9開催．参加者延べ147名．発表申込21件）．地域地質・層序部会合同オンライン研究発表会が検討され，発表希望等を事前にアンケート調査したが，希望者が少数であったため，開催しないこととなった．
⑤JABEEオンラインシンポ（佐々木）：「自然災害列島における地質技術者の育成－大学統合期における地質学教育－」（21/3/7（日）開催予定）．プログラム案等をHPに掲載し，広報を開始した．
⑥ジュニアセッション（デジタルポスター）（高嶋）：9/30に締切った．地学と関連の無い課題の応募が12件あったが（電子レンジ，綿糸の色，農園づくりなどの研究），専門性に基づいた正当な評価ができないということから受理せず，該当する分野の学会での発表を推奨した．結果16校18件の応募を受理した。評価コメントについては，例年どおり全理事からのコメントの依頼を行う．今年度は対面式の討論ができず，コメントをより充実させる必要があることから，地学教育委員会にもコメントを依頼する．また今年度は野外調査や室内での議論も十分に行えない環境のなか，頑張って応募いただいた．理事の皆様には是非とも前向きなコメントをお願いしたい．
⑦地質系若者のためのキャリアビジョン誌（坂口）：計25社から申込があり，現在冊子作成中．30万円ほどの黒字が見込まれる．

次年度学術大会の実施形態について，早い時期に検討すべきとの意見が出され，A完全対面，B完全オンライン，Cハイブリッドのそれぞれの具体的な実施方法を検討し，並行して今年度の他学会のオンライン大会の実績などについても情報収集を進めることとなった．

・令和2年度産業標準化事業表彰（経済産業大臣表彰）の公募に，学会から地質JISに関して産総研地質調査総合センターを推薦したが，残念ながら受賞ならず．

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1）総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
・原子力総合シンポジウム2020（9/30，オンライン開催）への共催依頼があり承諾した．
・第58回アイソトープ・放射線研究発表会（21年7月開催予定）への参画依頼があり，後援として承諾した．
・第62回藤原賞受賞候補者推薦依頼（12/15締切，11/30学会締切）（→geo-flash，ニュース10月号掲載）
・新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館より企画展示「ジオパークの微化石展」（8/1-9/6開催，地質学会後援）事業実施報告があった．
＜会員＞
①今月の入会者（１名）
正（院割）会員（1名）：横山裕晃
②今月の退会者（1名）
正会員（1名）：栗田泰夫
③2020年9月末会員数
賛助：27，名誉：43，正会員：3368［正会員：3282，院割：83，学部割：3］
合計　3438（昨年比-174）
＜会計＞
特になし
＜その他＞
・総務委員会活動報告：会員管理でのクラウドシステム導入/学会会計における今後の

収支改善策/総務委員会からの会員増加策について引き続き委員会内で意見交換を行っている.

3. 広報部会（坂口・小宮）

1）広報委員会（坂口）

・第12回惑星地球フォトコンテストの募集・広報を開始する（ポスター製作中）. 日本ジオパークネットワーク（後援），深田研ジオ鉄普及委員会（後援），株式会社　ウインディーネットワーク（協賛）

・地学オリンピック予選参加者配布用冊子「地球にわくわく未来ガイド」への広告掲載依頼（A4，1頁カラー広告無料）があった. 中高生対象の内容を検討し広告を掲載する. また本未来ガイドと合わせてジオルジュ最新号も配布予定.

・ジオルジュ 2020年後期号を編集中. 11月発行予定.

・日本ジオパークネットワークよりジオルジュバックナンバー（創刊～最新号：各約200部）の購入注文があった.

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1）行事委員会（星）

・名古屋大会代替企画（→全体報告へ）

・地球惑星連合より2021年大会学協会プログラム委員選出依頼があり，行事委員会から（正）納谷友規会員：層序部会，（副）松崎賢史会員：海洋地質部会　を選出した.

2）専門部会連絡委員会（辻森）

・各部会に専門部会規則に表彰についての条文の追加を依頼した. 規則改正は次回12月理事会への提案してもらう.

3）国際交流委員会（ウォリス）

・台湾地質学会とのMOU更新のため書面を準備中.

4）地質標準化委員会（辻森）

特になし

5. 編集出版部会（大藤・狩野）

1）地質学雑誌編集委員会(大藤)

（1）編集状況報告（10月5日現在）

・2020年投稿論文：59［内訳］論説31（和文30・英文1），レター 9（和文9），総説2（和文2），ノート3（和文2，英文1），報告5（和文5），口絵1（英文1），巡検案内書8

査読中：29　受理済み：20（うち特集号6 案内書2）

・126巻9月号：通常号　論説3篇，レター1篇，報告2篇（約74頁，発行済み）

・126巻10月号：通常号　論説2篇，レター2篇，口絵1篇（約55頁，校正中）

2）アイランドアーク編集委員会(狩野)

（1）編集状況報告

・4編/月程度の公開数で推移しているなど直近の編集状況の報告があった.

・被引用数0の論文が減ったことがIF上昇の要因として挙げられたが，最近中国からの投稿数が激減しており，IFにも影響が出ることが予想される.

3）企画出版委員会（小宮）

特になし

6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）

1）地学教育委員会（高嶋）

・ジュニアセッションについて（→全体報告へ）

2）地質技術者教育委員会（佐々木）

・名古屋大会代替企画「JABEEオンラインシンポジウム」（→全体報告へ）

3）生涯教育委員会（矢部）

・2022年の国際鉱物年にむけた企画を委員会で検討中.

7. その他執行理事会の下に設置される委員会

1）利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1）ジオパーク支援委員会（平田）

①日本ジオパークコンソーシアム準備会議にジオパーク支援委員会から天野委員長と利光委員が参加

②ユネスコ世界ジオパーク国内推薦机上審査への協力は、今後設置されるコンソーシアムへ移行される予定

2）地学オリンピック支援委員会（高嶋）

特になし

3）支部長連絡会議（平田）

・各支部に対して，支部規則に表彰についての条文を追加を依頼した. 規則改正は次回12月理事会への提案してもらう.

4）地質災害委員会（松田）

・防災学術連携体では，21/1/14（木）に東京医科歯科大・鈴木章夫記念講堂にて東日本大震災十周年シンポジウム「東日本大震災からの十年とこれから」を開催予定. 地質学会からは以下の内容で発表を申し込んだ.

後藤和久（東京大学）「（仮題）東日本大震災後の古津波堆積物研究の現状と将来展望」これに合わせて，全58学会から東日本大震災の経験とその後の活動への展開に関連する寄稿を依頼されている（期日：11/30(金)17時）. 磯崎会長が対応予定.

5）名誉会員推薦委員会（佐々木）

・2020年度委員を2020年12月に選定し,以後活動の予定.

6）各賞選考委員会（中澤）

・2021年度学会各賞募集（12/1締切）を開始した（ニュース誌9月号掲載）. 近年応募数が少ないので，周囲に応募を呼びかける. また今後，キャリーオーバー制度を導入してはどうかという意見が出された.

7）男女共同参画委員会（委員長 堀　利栄；代理 中澤）

・11/18にEGU主　催　のEDI（Equality, Diversity, and Inclusion）forumがweb開催される予定で，堀委員長が参加予定. EGU，JpGUでは一定以上のダイバーシティー基準をクリアした場合にEDIロゴを付与しプログラムに明示することを検討中.

8）法務委員会（中澤）

特になし

9）連携事業委員会（中澤）

特になし

9. 研究委員会

1）地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）

特になし

2）南極地質研究委員会（委員長　小山内康人）

特になし

Ⅰ　審議事項

1. 日本学術会議の「第25期新規会員任命に関する要望書」に対する学会対応について

10/9付で日本地球惑星連合，自然史学会連合ほか複数の学会連合により共同声明が発出された. 地質学会は，自然史学会連合参加学会として声明へ名を連ねたことを追認し、共同声明の内容に賛同することをメールで理事会の了解を得てから，学会HPで通知することとした.

2. 専門部会規則について（中澤）

法人化前に設置された専門部会には規則が制定されていないため，速やかに規則の制定を依頼する. また部会活動活性化のため、今後部会の統廃合を促進する仕組みが必要ではないかとの意見が交わされた.

3. 表彰制度の見直しについて（磯崎会長）

それぞれの賞について検討がなされた. 引き続き検討を進め，12月の理事会で提案する.

・日本地質学会賞：受賞対象から「グループ」を除き、「会員」個人のみを対象とする.

・日本地質学会功労賞：受賞対象から「グループ」および「非会員」を除く.「会員」のみを対象とする.

・日本地質学会Island Arc賞：論文に対して授与する賞であるため，受賞対象に関わる自明の記述（「共著の場合は全員を受賞者とする」）を削除する. またIsland Arc Award（英語表記）を正式名称とする.

・日本地質学会研究奨励賞：受賞対象を筆頭著者に限らない. 年齢等受賞条件を満たしている場合は共著者でも推薦可とする.

・中堅(50歳未満)向けの新賞の名称（案）：日本地質学会ナウマン賞

以上

2020年11月14日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事）磯崎行雄

署名人　執行理事　中澤　努

CALENDAR

2020.12〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2020年

12月　December

日本原子力研究開発機構：深地層の研究施設計画に関する報告会2020
12月1日（火）13:00-16:00
YouTubeライブ配信（事前申込制）※視聴は無料
https://www.jaea.go.jp/04/tisou/houkokukai/houkokukai_r02.html

令和２年度自然史学会連合講演会
「九州北部から広がる自然史研究：化石からランまで」
12月6日（日）13:30-15:30
場所：北九州市立いのちのたび博物館（ガイド館）
http://www.kmnh.jp/2020/11/8226/

★関東支部「オンライン講演会ーおうちで学ぶ恐竜研究の最前線ー」
12月12日（土）13:00〜15:00
Zoomによるオンタイム、オンライン方式
申込締切：12月5日（土）
詳しくは，
http://www.geosociety.jp/outline/content0201.html#201212

海と地球のシンポジウム2020（オンライン）
東京大学大気海洋研究所・JAMSTEC共催
12月17日（木）〜18日（金）
http://www.jamstec.go.jp/j/pr-event/ocean-and-earth2020/

地質学史懇話会
12月25日（金）13:30より
会場：北とぴあ　701号室（東京都北区王子）
志岐常正：戦後京大地質学教室史-その虚像と実像／矢島道子：『地質学者ナウマン伝』を上梓して
問い合わせ先：矢島 pxi02070@nifty.com

2021年

1月　January

学術フォーラム・防災連携シンポジウム「東日本大震災から10年とこれから」
1月14日（木）10:00-18:30
会場：東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂
主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、防災学術連携体（58学会）ほか
参加費：無料
定員：（会場）150名（500名の定員を1/3に制限しています）
（WEB）1000名
https://janet-dr.com/060_event/20210114.html

3月　March

★JABEEオンラインシンポジウム 自然災害列島における地質技術者の育成ー大学統合期における地質学教育ー（2020名古屋代替企画）
3月7日（日）14:00〜16:40（予定）
配信方法：ZoomにYou Tubeを連動させるオンライン方式
参加費無料．Zoom参加者は事前登録制
http://www.geosociety.jp/science/content0127.html

5月　May

日本地球惑星科学連合2021年大会
開催方式：ハイブリッド開催（オンライン開催＋現地開催）
現地会場：パシフィコ横浜ノース
5月30日（日）-6月1日（火）/現地開催（主としてポスター発表）
6月3日（木）-6月6日（日）/オンライン開催（口頭，ポスター）
http://www.jpgu.org/meeting_j2021/

注意：新型コロナウィルス感染拡大の影響により，行事中止の可能性もあります．実際の行事開催の有無については事前に各主催者，問い合わせ先にご確認ください．

訃　報

本会の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

名誉会員
鈴木堯士（6月1日）
高柳洋吉（7月21日）
斎藤常正（8月1日）

正会員
片平忠實（2019年11月18日）
小林巖雄（4月11日）
加藤久美（4月15日）
鈴木舜一（4月15日）
中川　博（4月20日）
渡辺吉和（4月24日）
小林二三雄（7月25日）

（金融機関用）　　令和　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6 日 ・ 23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	

（フリガナ） 口座名義人		金融機関お届け印
	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	印

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人		ゆうちょ銀行お届け印
	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号		通帳番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1 ［　　］ 0	の	

払込先口座番号	００１１０－５－５８８３０	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード：１８４７６０００	顧客コード：０００００［　　］	

－預金口座振替規定－　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、
　通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日受印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

のりしろ①

84円切手貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

一般社団法人 日本地質学会

御中

オリ線

住所
氏名

オリ線

のりしろ③

裏面のりしろ③

のりしろ②

キリトリ線

裏面のりしろ②

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003年9月19日　日本地質学会総会制定
2009年12月5日　一般社団法人日本地質学会制定*

日本地質学会の会員は，科学的真理を明らかにする事を目的として，誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う．その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り，もって社会の発展と人類の福祉に貢献する．会員は，基本的人権を守り，良識かつ品位のある行動をとる．

1. 科学者としての倫理：会員は，専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る．研究と調査においては，法を尊守し，社会的良識に従って行動する．科学的事実に対しては常に謙虚，誠実でなくてはならない．研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し，公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する．

2. 知的交流の確保：会員は，国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに，研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める．

3. 人類と社会への責務：会員は，その専門知識と技術を適切に活用し，研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する．

4. 地球環境への責務：会員は，地球システムの諸現象についての専門家として，地質災害の予知と防止，地球環境の将来予測，資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに，専門知識を活かして環境の保全と改善に努める．自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する．

5. 次世代への責務：会員は，地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展，次世代を支える人材の育成を図る．研究や調査の成果物，重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める．

*2009 年12月5日法人理事会において，一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定.

一般社団法人日本地質学会行動規範

2011年9月8日　一般社団法人日本地質学会理事会制定

日本地質学会が他機関や組織との連携事業を実施する際に，学会員の立場や責任について，学会員ならびに社会に明示するため，一定の規範が必要であるとの認識のもとに，本会倫理綱領を踏まえて行動規範を定めるものである．

（透明性，説明責任）
1. 会員は，地質学・地球科学分野の進展とその成果が与える社会的影響を自覚し，公益性の観点から客観的事実を明らかにするよう努力すると同時に，事実を社会に周知するよう努力する．
2. 会員は,専門の業務において,その目的・方法・成果等について,要求された場合には明快に説明する責任がある．特に専門家でない者には,相手の立場に立つ姿勢で分かりやすく説明する責任がある．

（自立・公益性）
3. 会員は，立案，計画，申請，実施，報告などの過程において，真実に基づき，公正であることを重視し，誠実に行動する．研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し，ねつ造，改ざん，盗用などの不正行為をなさず，加担しない．また，科学技術に関わる問題に対して，特定の権威・組織・利益によらない中立的・客観的な立場から討議し，責任をもって結論を導き，実行する．
4. 会員は，関与する計画と事業が人類社会や環境に及ぼす影響を予測評価する努力を怠らず，公衆の安全，健康，福祉を損なう，または環境を破壊する可能性がある場合には，中立性，客観性を保ち，自己の良心と信念に従って情報を公開する．

（中立公正）
5. 会員は，人種，性，年齢，地位，所属，思想・宗教などによって個人を差別せず，個人の人権と人格を尊重する．また，個人の自由を尊重し，公平に対応する．
6. 会員は,専門知識を説明するときは,一方的な価値観を押し付けることのないよう，他者の理解を得るように努める．
7. 会員は，他者と互いの能力の向上に努力し，専門上の批判には謙虚に耳を傾け，不公正な競争を排除する．

（契約に対する誠実性と利益相反）
8. 会員は，雇用者または依頼者それぞれのために，誠実な代理人または受託者として行動する．
9. 会員は，雇用者または依頼者から不適切な便宜供与を受けてはいけない．
10. 事業の結果および研究の成果が他団体または，自らを含む特定の個人に利益をもたらすことが予想される場合には，事前に雇用者あるいは依頼者の了承を得る．

以上

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp